

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立児玉白楊高等学校	Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校の置かれた状況や生徒の実態等を把握・分析し、専門高校としての目指すべき方向を検討している。学校に寄せられる地域等からの期待に十分応え、専門学科の特色や地域に根差した伝統校としての強みを生かした魅力ある学校像となるよう工夫していただきたい。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	地域や保護者の期待、生徒の学力等の実態、一人一人の進路実現を踏まえた重点目標が設定されている。粘り強い生活指導等による生徒の変容等を勘案しながら、更に検討・整理するとともに、中期的視点で学校が取り組むべきことを一層重点化した具体的な目標を設定することが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会と分掌・学年等が有機的に連携し、学校自己評価システムが運営されている。「地域連携委員会」を中心に学科間で連携した「おもしろ体験講座」を開催するなど組織的な情報発信に取り組んでいる。評価項目が当該年度で達成すべき目標としてやや分かりにくいので明確にするとともに、より重点化された目標となるよう工夫していただきたい。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	評価運営委員会で方策を策定し、課題の解決のために取り組んでいる。「遅刻指導」や「朝学習」、「校内漢字大会」など様々な方策が分掌・学年・教科等の連携により実施され、具体的な成果も見られ始めている。評価指標は取組指標も用いるなど教職員間で達成イメージを共有できるものとして工夫されており、達成状況を評価するためのものになっている。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の現状や地域等からの期待を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、目指す学校像の実現のため取り組んでいる。校長が的確にリーダーシップを発揮し、分掌・学年・教科等が全体の目標を理解しながら、教職員全体で様々な取組を行っている。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	年度評価や学校関係者評価などを基に、取り組むべき課題や改善策が示されている。課題や次年度への改善策を明らかにするために適切な質問項目を設定するなど、必要なデータが得られるようにアンケートの内容を工夫するとともに、回収率を上げ、アンケート結果の多角的な分析を行い、次年度のより具体的な取組につながるようしていただきたい。
特記事項		